



平成30年10月5日

岩倉市議会

議長 黒川 武 様

会派名 真政クラブ

代表者名 塚本秋雄

「全国地方議会サミット2018 議会のチカラで日本創生」報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

1 実施日 平成30年7月11日（水）～7月12日（木）

2 会場 早稲田大学大隈記念講堂大講堂
東京都新宿区戸塚町1丁目104

3 出席人数及び氏名

6 名	塚 本 秋 雄	櫻 井 伸 賢
	大 野 慎 治	鈴 木 麻 住
	堀 巖	宮 川 隆

4 復命事項

別紙のとおり

「全国地方議会サミット 2018 議会のチカラで日本創生」

【日 時】 2018年7月11日(水) 13:00~17:30 <受付・開場 12:00>

2018年7月12日(木) 9:30~16:00 <開場 9:00>

【場 所】 早稲田大学大隈記念講堂大講堂 (東京都新宿区戸塚町1丁目104)

▽プログラム ※変更する可能性があります

■1日目:7月11日(水)

【基調講演】13:00~13:30

「地方議会から日本を変える」

北川正恭 早稲田大学名誉教授

【特別講演】13:30~14:20

「地方創生の展望」

野田聖子 総務大臣

(休憩)

【講演、ディスカッション】14:30~16:00

「真の地方創生とは何か」

片山善博 早稲田大学教授/地方創生と地方議会の役割

大西一史 熊本市長/震災復興と地方創生

北川正恭 早稲田大学名誉教授

(休憩)

【課題整理】16:10~16:30

「地方創生時代に求められる議会力」

江藤俊昭 山梨学院大学教授

【パネルディスカッション】16:30~17:30

「議会力強化のための、議会事務局の変革」

小林宏子 東京都羽村市議会事務局長

清水克士 滋賀県大津市議会局次長

▽進行:千葉茂明 月刊『ガバナンス』編集長

※18:00~ 大隈ガーデンハウスにて意見交換会

■ 2日目：7月12日（木）

【先進事例報告①】 9：30～11：20

「地方創生をリードする議会へ」

目黒章三郎 福島県会津若松市議会議長／住民との対話から課題解決へ
子籠敏人 東京都あきる野市議会議長／広報改革から展開する議会改革
ビアンキ・アンソニー 愛知県犬山市議会議長／自由討議で委員会提言へ
川上文浩 岐阜県可児市議会議長／委員会代表質問と政策サイクル
▽進行：廣瀬克哉 法政大学教授

（休憩）

【先進事例報告②】 11：30～12：30

「政策を実現する議会へ」

尾崎大介 東京都議会議長／条例マニフェストと議会改革
松本研 横浜市会議長／議員提案条例による政策実現

（昼食）

【講演】 13：15～13：50

「海外の議会制度から議会の多様性を考える」

中林美恵子 早稲田大学教授

【パネルディスカッション】 13：50～14：50

「多様性ある議会に向けた実践と課題」

本間まさよ 東京都武蔵野市議会議長
岩永ひさか 東京都多摩市議会議長
白川静子 神奈川県茅ヶ崎市議会議長
南千晴 群馬県榛東村議会議長 <ビデオメッセージ>
▽進行：中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

（休憩）

【提言、総括】 15：00～16：00

「政策型選挙の実現に向けて」

1日目：7月11日（水） ※1000人以上参加している。

【基調講演】「地方議会から日本を変える」

北川正恭 早稲田大学名誉教授

これからは、民意を代表する議会が、地方から変えていこう。23年前三重県知事に就任した時、1995年（平成7年）に地方分権推進法が生まれた。分権を創生にしていく。首長執行機関の追認機関から脱皮していくことである。

議会がしっかりすれば、執行部も変わる。

県庁文化に勝つとは？風土（PDCAサイクルへ）を変えること。

IT時代、紙からインターネット時代、紙の文化がネットの文化に変わった。

合言葉は「T・T・P」徹底的にパクることである。※大事なことである。

【特別講演】「2040年を見据えて構想する地方のあり方」

安田 充 事務次官

町村議会として、高知県大川村の「なり手不足」対策の話。

多数参加型と集中型議会の話をしたら、強い反発があった。

人口の東京集中を、10万人減らすが、逆に12万人増えた。

基本は人口増加でなく、人口減少である。我が国の人口動向は、1947年から49年の間に270万人生まれた時と比較すると、1971年から74年の間は200から210万人で、その下に山がない、「かんおけ型」である。

2017年は95万人生まれた。

総務省の研究会の報告として、高齢者が人口増加していくことによる支え手の危機。介護などが他県に依存していく状況。一人暮らしの高齢者が増えていく。

都市のスポンジ化対策。スマート（AI・ロボット化）自治体への変革。

自治体をフルセットとして県域内での行政を考えることの答申をした。

6団体から強い意見が出ているとのことである。

【講演】「地方創生と地方議会の役割」

片山善博 早稲田大学教授

真の地方創生とは何か。地方議会が変わってきた。広がりを持ってきた。

二宮尊徳の言葉に日常的なこととして「小さいことの積み重ねである。」今よりもっと良くすることである。※大事なことである。

どうすれば日本社会が良くなるのか？4年前の地方創生は今までと同じやり方ではうまくいかなかった。地域を知らないコンサルタントがつくるやり方はだめである。どこで正す、議会の承認事項にすべきだった。

地方創生とは、地域の人口流出に歯止めをかけ、出生率を上げることである。

議会の方々は、自由闊達に言うべきである。※大事なことである。
国はアウトソーシング。外部化である。施設は指定管理へ出しなさいと言う。
図書館の話はおろかな政策である。地域本位に考えるとは、地域で考えること。
まさに本屋がないとは、医者がないと同じである。司書は知的業務、魅力がある。

【講演】「震災復興と地方創生」(復興と議会について)

大西一史 熊本市長(県議5期経験)

熊本城は10年かけて、10万個の石垣を積む。

自治体から64,000人、民間2,000人、ボランティア等8,000人。
寄付金は1億1,300万円。

2016年4月14日前震(M6.5が7回)、16日(M7.3)本震、
余震4,500回。

4月16日本震、25日全協(安全確認)、28日代表者会議、5月9日議運、
10日国への要望、6月10日定例会(専決処分)、17日特別委員会以後8回
集中審議する。

大事なことは①避難場所②避難行動③生命財産を守るため、水を一杯届ける。

④情報を届ける(デマはダメ、公式ホームページで)。

災害時の議員の役割は、「地域との対話によるニーズ把握」議会としての対話集
会のあり方研究する。情報提供の一元化のルールづくり。要望と意見を分ける。
集約とトリアージ(優先順位)する。対話から政策へ。公助の限界+自助+共助
(地域力)※大事なことである。

まちづくりセンターを17か所つくった。95区に地域担当職員を49人配置
した。市民満足度を上げるためには、御用聞きではだめ。引き出すこと。

決まった情報もだが、決まる前の情報を提供していくこと。※大事なことである。

【講演】「地方創生時代に求められる議会力」

(新しい議会には新しい議会がいる)

江藤俊昭 山梨学院大学教授

議会とは公開で討議することに存在意義がある。新しい議会をつくり出すこと。
この10年間議会人が変わった。多様な民意を吸収できるのは議会だけである。
議会改革の本史(当たり前のこと)とは、いかに住民福祉の向上につなげること。
そのために政策サイクルを回していく。PDCA、討議・決定・住民目線・合議
制である。政策サイクルの基点に、住民を参加させていく。行政改革(合理性)
と議会改革(地域民主主義の実現)は違う。※大事なことである。

議会図書室には、地域の争点がすべて入っているべきである。図書室を充実させ
れば、勉強する住民が増える。

【パネルディスカッション】「議会力強化のための議会事務局の充実」
人格を持った議会＝議会力強化のためには、議会事務局の充実である。
チーム議会とは、議会事務局含めてである。※大事なことである。

○小林弘子 羽村市議会事務局長
事務局に配属になって、お茶くみ仕事、本会議中心主義、申し合わせなど議員と一緒になって考えて取り組んだことにより、議員の能力と一緒に考えることができた。

○清水克士 大津市議会局次長
議会事務局へきて10年遅れていると思った。
申し合わせルールを見える化した。会議規則を条例化した。
前例主義はおかしい。議員と事務局職員との対話をした。議員の思いを話す。

2日目：7月12日（木）

【先進事例報告】

○目黒章三郎 会津若松市議会議長
10年間議会の役割、監視機能、政策立案、民意吸収の仕組みづくりをした。
①議長選挙における所信表明。②請願での意見陳述③先進地視察して知見向上
④議員同士の自由討議⑤議案に対し要望的意見や付帯意見を付ける。

○子龍敏人 あきる野市議会議長
①教育長の所信表明②図書館連携③通年議会（1月4日開会、12月閉会）④後方の新聞折り込み⑤名刺の裏書

○ビアンキ・アンソニー 犬山市議会議長
①議員間討議（一般質問の後みんなで全協で話す）②議会の政策立案及び政策提言の力を③市民参加（市民フリースピーチ制度）

○川上文浩 可児市議会議長
①決算審査は50時間かける。（グループディスカッション）②委員会代表質問（住民福祉の向上・住民福祉が上がるかの質問）③78議会800人視察に来る。会話がないと物事が進まない。※大事なことである。

災害情報を携帯・タブレット端末など活用する。
議長は企業のトップに会える。議長は日々アンテナを立て、議員にアドバイスする。

議会の議員、人間模様は2対6（中間層）対2（俺は聞いとらんという人＝足を引っ張る人）を見抜くこと。仕組みづくりと仕掛けづくり。※大事なことである。
可児市議会は議運に各常任委員会を入れる。執行部にパブコメ出す前に議会に説明させる。

○尾崎大介 東京都議会議長

しらがみがあり、古い。まず公用車22台あった公務でなくても使えたが削減し、ペーパーレス化した。政務活動費での飲食はダメとした。

東京都議会は議員の数より職員の数が多い(250人)。

外国からの自治体訪問が多い。

都議会が動くと東京23区が動く。

○松本 研 横浜市議会議長

議員提案条例による政策提案する。4年間で8本実現した。

2010年4月「横浜市中心企業振興基本条例」制定し、その後も勉強して関わっている。また、5年以上のものを検証していく。

【講演】「海外の議会制度議会の多様性を考える」

中村美恵子 早稲田大学教授

日本の地方議会はアメリカの大統領制に近い。

【提言、総括】「政策型の選挙に向けて」

20年後の社会は想像をはるかに超える。

統一地方選は選挙政策ビラ作成で取り組める。

地域の課題をどうやって解決していくのか？

立ち位置を変えて、思い込み、洗脳、固定観念を変える。

質的充実とは、追認機関をやめることである。

会派として『研修から学んだ項目の実践にむけて』

議会改革は改善である。小さい事をひとつひとつ積み重ねて行く事である。

そのためには、議員同士による自由闊達な議論ができる環境づくりである。

常に気付き(洞察力)を意識し、住民・職員とのコミュニケーション能力を磨き、

岩倉市の将来ビジョン(想像力)づくりに役立つ研修となりました。

議決権をもつ議会は、魅力的なまちづくりを行うための重大な責任と豊かな可能性のあることを再認識しました。